



芋を洗うような芋ほりでした(須田農園)

ゆり北

第138号 (13期第6号)

発行・光が丘パークタウン

ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-4-403

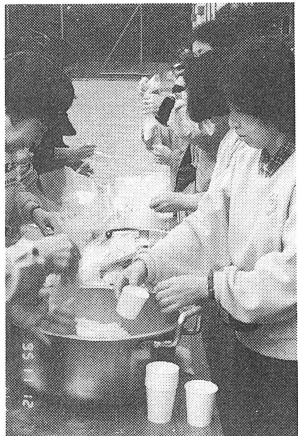
電話03(3938)9181番

発行責任者 吉 柳 俊 孝

ゆり北防災訓練

震度5を体験、消火器操作もバッチリ

晩秋の日曜日、ゆり北防災訓練が新町小学校校庭で開催されました。前日に木枯らし一号が吹き、寒さが心配されましたが、暖かい陽ざしにも恵まれ恰好の一日でした。今回は急遽、起震車が来ることになって開始時間も九時から早かったのですが、約百二十名の参加者がいろいろな訓練に取り組みました。



お米を入れてるところ

団地内の火災やボヤは年々増加傾向にあり、大地震の情報も無視できない今日この頃、志村消防署の方の

防災講話は心に響きました。

起震車で強い揺れを体験したり、煙ハウス内でのほふく前進は、新材料多用の壁に囲まれて生活をしている私達には、忘れてはならない避難の方法になるでしょう。また台所での火災は、換気扇を使用している事が多いため、炎が換気口に吸い込まれて高く大きくなると言われていました。初期消火をあわてず確実に行うためには、消火器の操作を機敏にしなければならず、繰り返し訓練して覚えることが、いざ、という時の大きな自信になると思います。

炊き出し訓練も初めてなので、前日に十五キロの米を三人で手分けしてとぎ、一晩水につけ、朝ザルにあげたものを用意しました。当日その米を炊飯袋(目盛りのついた炊き出

よい団地環境!!モラルの向上 ごみの団地でも悩み、ごみ・自転車

23区自治協では、団地環境と防災活動について、各団地の取り組みについてそれぞれアンケートを行いました。このアンケートのまとめをもとに、十月二十八、二十九日の両日泊りこみで交流会を開きました。

団地環境では、駐車場、自転車間題、ごみ・リサイクル、その他(放火、ペット、痴漢、ホームレス等)が取りあげられました。

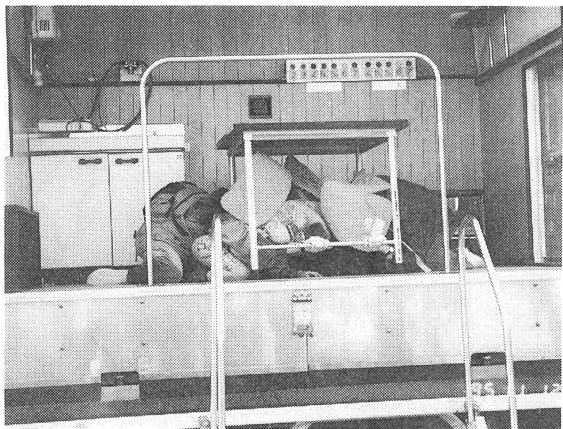
まず「住民のモラルが急速に低下しているのではないか。ルールが守られないために様々な問題を起している」という提起がありました。各団地とも共有スペースの使い方、ごみ処理、放置自転車などで悩んでいることがつぎつぎと出されました。あ

し用ビニール袋)に一合入れ、次に水を同量入れた後、袋内の空気を抜いて口を結び、水を煮立てた鍋に入れて約二十分間袋ごと煮る。二十分後に袋を取り出し、五分間程蒸らすと出来上がる。というものをやってみましたが、参加者の絶大なる協力を得てまずまずの成功でした。十一時過ぎ、参加賞の携帯用ウォータータンクと乾電池セットを手にお疲れ様、散会となりました。

防災訓練うけた人々から一言
炊き出しの所で
水を入れる加減が難しかった。ビニールの袋をとじる針金のクリップは短いと思う。
四号棟 吉田舞さん
ビニール袋にお米を入れるのに紙コップを使ったがやりにくかった。もし本当にこれをやる必要が生じた時、どんな道具まで準備してあるのか、知りたいと思う。
十号棟 名取淳子さん
起震車と煙体験会場で
煙体験で始めて物が見えない時の恐ろしさを実感した。抜け出すまでの時間が非常に長く感じられた。
七号棟 島内京子さん
起震車に乗っている時間は二十秒と聞いていたが物凄く長く感じられた。煙体験で分ったのは真つくらやみで何も見えないと恐怖が倍増されてくる。訓練なので目にしめない煙を使う



ゆっくり火に近づいて...



チビッコも起震車を体験

れば、筋力がいいではないかとの意見もありました。

結論的には、団地環境を守るのは住民のモラルの向上にあること。そのためには自治会が住民に対して具体的に行動を提起することが必要。また、住都公団が自治会を公的に認知し、活動を援助すべきであるという感想を持ちました。
(防災問題については次号に続く)



消防署長さんの話をききました

っているとのことだが本場の火事の時、火に追いかけられる恐怖と煙を吸わないようにして逃げるのに、パニックに陥らないで冷静でいられるかどうか分らない。
四号棟 柳沢洋子さん
煙体験で暗やみの中を手さぐりで進むとき、途中で本当抜け出せるかどうか不安に駆りたてられた。
三号棟 岡田千代美さん



結構コワイ煙体験

肌寒い日曜の午前中にもかかわらず、防災訓練に参加していただいた方々どうもご苦勞様でした。大人は勿論、子供たちが一生懸命に訓練に参加してくれたのもしい限りでした。来月は年末の大掃除とパトロー

あんなサークル・こんなグループ

今回から団地内にあるサークルや、グループを紹介する欄をもうけました。第一回は「山で楽しむ会」です。



三年前にハイキングに誘われてすっかり自然のとりこになりました。一年に二回から三回ぐらいで

お手玉を知ってますか

ゆり北文化展でお手玉作りをしました。それに、さきだって「すみれ会」会長の林テツヨさんに作り方の講習を受けました。



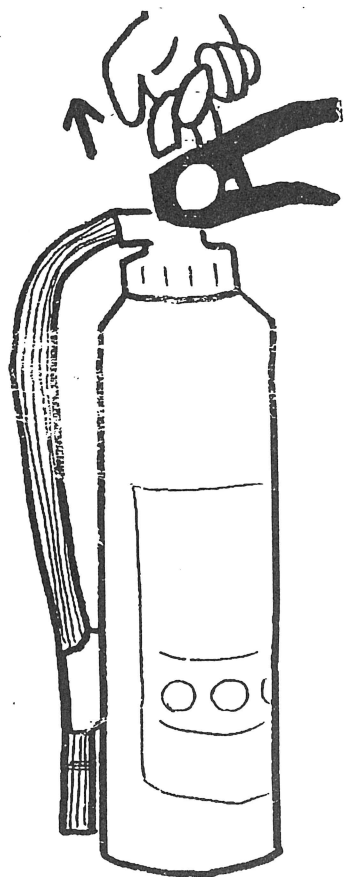
登っています。人数は六名から十名ぐらいです。電車に少しゆられるだけで、こんなにも豊かな自然があるんですね、梅林の淡いピンク、したたるような新緑、錦に染まる紅葉など季節の移り変わりにはいつもすばらしさを感じさせられる今日このごろです。十一月五日には奥多摩の高水三山へ登ってきました。女性ばかり七名でしたが、とても楽しい一日でした。次回は来年の始めごろ行きたいね」と話しているんですが、みなさんも山道を歩いて野の花や雄大な展望に心を感じられてはどうですか。



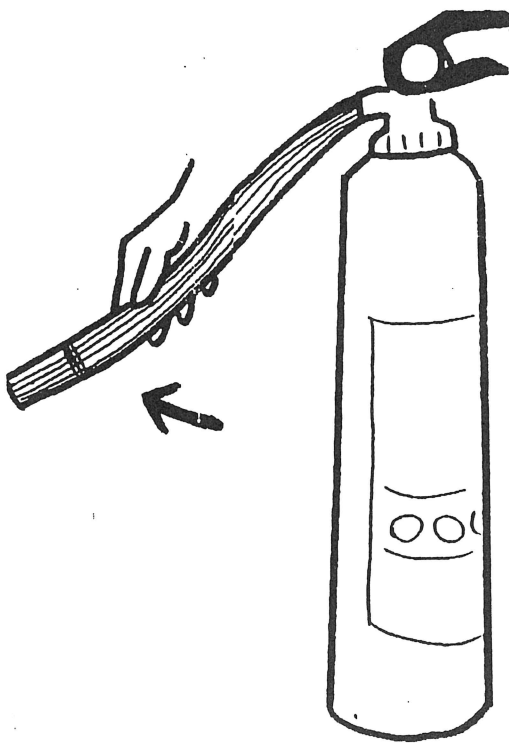
右は林テツヨさんと紙谷カヨさん。お二人は八十才をこえて尚、カクシヤクとして、カラオケに、踊りに、フラワー作りに、あるいは、今度のお手玉作りなど、元気にはつらつとした暮らしぶりです。

いざというときのために 消火器の使い方 マスターしておきましょう

分譲号棟には、特定の階段、廊下に備え付けてあります。必ず場所を確認しておいて下さい。
まず、安全栓を引き抜く



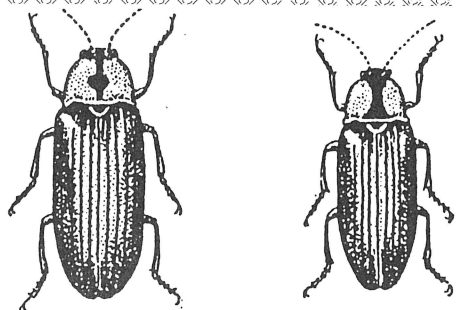
ホースをはずし火元へ向ける



レバーを強くにぎる



シリーズ(10) 我がパンク時代 昭和二十六年～三十年代の赤塚



ホタルとり

夏の夜、いとこと一緒に、カボチャをくり抜き、ローソクを立てて燃やし、虫かごを持って、「ホタルこい」とウチワで、大きな源氏ボタルと、小さな平家ボタルを落として、たくさん取った。落とすと、光っているからすぐわかる。かこの中にぬれた草をいれて置く。この小川の清流や、不動の滝の湧水が溜池に流れ込んでいた。溜池に貯水し、田に水が必要な時、放流した。この前に、そ水があった。上流は池端の方から流れてくる。ここに手で汲む井戸があり、魚取りで、手が汚れるとよく洗った。周りには、ヨシがたくさん生え、魚釣りをしたこともあったが、あまり深く釣れなかった。

池端(いけばた)

赤塚大門諏訪神社横の急坂「シツタル坂」は、途中から何ヶ所か水が侵み出て、雨が降った翌日は坂が滑ってとまらない。命がけで恐かった。沢ガニもいた。魚取りにいく時の近道ですが、へビのよく出る難所もあった。坂を下るとコンクリートの、そ水(湧水)で水は、冷たくてきれい)で流れが早く、深さもあり、落ちたらつか

まる所がない場所を渡って池端に出る。ここは魚のよく釣れる場所であった。コイ、ナマズ、ライギョ、フナ、クチボソなど釣れた。また、かいほりといって、沼の水をポンプで汲み出し、横の小川に流し、ほとんど水をなくしてしまふ。パンツ一枚になって、深い所は胸まで浸かって、玉網や、小さな四ツ手網、または手づかみで、足が思うように進まない泥の中で、前記の魚を取った。ライギョはしまよりのグロテスクな魚で1mぐらいあった。ウナギもコイも、カラス貝も取れたが臭くて食べられない。たしか二〇円、五〇円の間ぐらいのお金を徴収された。

池端は、背丈ほど高いヨシがい茂り、きれいな水が流れこんでいた。それまで一度も見たことのない大きなきれいな魚が田んぼで動いていたので夢中でつかまえた。赤い斑点があった。いとこに聞いた。今、思うと、ヤマメであった。この流れの早い清流から田んぼに入ったのでしよう。

近くのせき止めた川

深い所で泳いだり、カエルを殺して皮をむいたり、大きなアメリカザリガニを釣った。近くの田んぼの中や、その横の小さな川でドジョウがたくさん取れた。田んぼの中を歩くと、ヒル(黒い平らなミミズの形をした)に血を吸われた。溺れたヒョウタン池で、水色で薄くてきれいな魚を釣った。今では、絶滅に近いオスのオカメタナゴだ。藻エビも玉網ですくってとった。亀はいたる所にいた。かまれたら離れない亀に似たスッポンも泳いでいた。